

(別記様式)

平成28年度 京都府立盲学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（ 実施段階 ）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>京都府立盲学校創立150周年に向けて、時代のニーズに応じた学校づくりを当面5カ年計画で目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インクルーシブ教育システムの構築に向けた教育改革 ・幼稚部から高等部専攻科までの専門的な教育環境整備 ・共生社会を目指した地域・関係諸機関との連携再構築 ・150周年記念資料集編纂 	<p>（成果）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導案の作成に関する会議や個別の指導計画見直しに向けた会議など有機的な会議設定が行えた。 <p>（課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視覚障害教育の専門性及び指導力の向上を図り、授業改善に取り組む。 ・情報関係のセキュリティの強化を進める。 ・校地間の連携の下、校内安全面に関する再構築を進める。 	<p>（1）視覚障害教育の専門性と指導力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全職員の公開授業と実践例の作成 ・個別の指導計画の完備 <p>（2）職業自立を目指し、キャリア教育の視点に立った進路指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時代に即した職業教育の検討 ・京都フロンティアコースの教育内容の充実と生徒の発達段階に対応した指導体制作り <p>（3）関係機関との密接な連携と保護者や学校等への支援推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療・福祉機関とのネットワーク作り ・視覚支援センターの相談機能の強化 <p>（4）ホームページ等情報発信と情報セキュリティの強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの適宜更新 <p>（5）150周年資料集編纂に向けてプロジェクトの開始</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
教育活動全般	専門性の継承・発展、指導力・支援力の向上に努め、在籍幼児児童生徒の教育を充実し、併せて地域の学校等への支援を進める。	卒業後の進路を見据え、各学部における教育内容の充実と生徒の発達段階に対応した指導体制作りを進める。	B	<p>授業改善に向けた取組を進めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（小）全員が実践事例を作成し、検討会（3回）を開催した。 ・（中）学習の成果（生活単元学習・作業学習）を地域と連携した取組につなげた。 ・（高）京都府の「各教科等を合わせた指導」事業について、各学部の重複指導担当者と連携しながら取り組んだ。 ・（全）医療、療育、福祉との連携、地域校との交流及び共同学習を計画的に進めた。 ・（中・高）卒業後の進路を見据え、個々の生徒の課題に合わせて、各種施設等の見学・実習を積極的に実施した。
		保護者や関係機関との連携を深め、個別の教育支援計画を活用して、自立と社会参加に向けた支援を進める。	B	

		地域支援センターの相談機能を充実・改善し、保護者や地域の学校等への支援を推進する。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・療育機関との連携、保護者支援の取組（3年目）により、幼児の継続相談が増加（昨年比1.5倍）した。 ・教科指導、最適文字の選択、試験点訳、視覚補助具の活用等で、丁寧に支援を進めることができた（小中学校）。 ・今後は府北部地域における関係諸機関（教育局、保健所等）との連携を推進するとともに、個別の教育支援計画の活用についても検討を進める。
組織運営	各担当、各分掌及び各種会議を有効に活用し、組織的・機能的な運営に努める。	課題解決のためのプロジェクト会議を設置するとともに、学部横断的な運営会議を定例化するなどして、学部間の連携を強化し、機能的な組織運営を進める。	B	B <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は「教科等を合わせた指導」をはじめ、新たに複数のプロジェクト会議を立ち上げ、学校全体の取組として各種事業を進めた。 ・運営会議を定例化し、全8回開催することができた。寄宿舎の活用、理療科教員の小中学部への派遣等、新たな取り組みについて検討することができた。
研究研修	教職員の教育力の向上を目指し、専門性を高めるため、研究・研修を計画的に進める。	校内各組織との連携の下、基本研修や専門研修等を充実させるとともに、視覚障害教育研究会等を当初の計画に基づいて実施する。	B	B <ul style="list-style-type: none"> ・視覚障害教育研究会を年2回実施し、外部講師による講演会や、各学部・寄宿舎の実践事例を元にした研究討議等に取り組んだ。 ・合理的配慮、自立活動等についての基本研修に加え、専門研修（点字週2回、歩行年20回）を実施した。 ・今後も幼児児童生徒の実態に即した研究・研修を計画し、更なる充実を図る。
	全校的研究テーマに基づき、校内の研究・研修内容の充実を図る。	授業公開や小規模な勉強会等を実施し、専門的かつ実践的知識と技能の向上を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・研究テーマ「一人一人が輝くために～実態を踏まえた適切な支援～」を授業づくりや生活指導に反映させるとともに、年2回授業公開を行い、教職員間の相互理解につなげた。 ・共通テーマに即した教育活動に継続して取り組み、教職員の指導力・実践力の向上に努める。

生徒指導・ 安全教育	登下校時の安全確保及び児童生徒の安全・防犯に対する意識・能力の育成を図るとともに、不審者対応について徹底する。	登下校時も含め、児童生徒が安全に安心して安定した学校生活を送るために必要なルールやマナーの徹底を図るとともに、避難訓練や教職員向けの不審者対応研修を行う。また、災害発生時における対応マニュアルについて、再点検を行う。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員向けの不審者対応研修を行い児童生徒の安全・防犯に対する意識・能力の育成を図った。今後、各校地の特性を踏まえた研修を進めていく。 ・PTAとも協議しながら地震発生時における対応マニュアルの見直しを進めている。
		校地間の連携を取り、生徒指導上の配慮が必要な児童生徒について交流を行う。	B		
広報発信・ 情報管理	ホームページを通じて広く情報の発信に努める。 情報機器等のセキュリティ強化を進める。	ホームページの再編を行うと同時に更新・管理に努める。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの再編を行い、管理運営に努めた。 ・特にWIFI環境に関するセキュリティを高めることができた。
		情報機器等の整備と情報セキュリティの強化を進める。			

学校関係者 評価委員会 による評価	<ul style="list-style-type: none"> ○ 盲学校と関係諸機関との連携への期待（視覚障害者のための連携再構築、盲学校における進路指導等） ○ 積極的に盲学校に関する情報を発信することの重要性 ○ 卒業後を見据えた教育内容、指導方法への期待
-------------------------	---

次年度に 向けた改善の 方向性	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「幼小学部・中学部・高等部」への組織改変から3年が経過するのを機に、これまでの教育活動の総括を行うとともに、今後の在り方を検討する。 ○ 新学習指導要領に関する理解を深めるとともに、各学部で新しい新教育課程の検討を始める。 ○ 高等部については、普通科・理療科とも、12月末までに、現行の教育課程の見直しを行う。 ○ 全教職員が実践事例を年間1本作成する。 ○ 関係諸機関との連携再構築の取組を積極的に進める。
-----------------------	---